

超少子高齢型 人口減少社会は 待ったなし!



松本市の人口は、2002年(平成14年)をピークに、減少傾向に転じました。

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が公表した

地域別将来推計人口によると、現在206万人の長野県の人口は、2025年には200万人を下回り、2045年には161万人となる見通しです。高齢化もどんどん進行、2040年の松本市の高齢化率は34.6%と推計されています。



キーワードは**“持続可能”**

すべては**市民益**のために



議会の一番の役割はチェック機能

しがらみと忖度から 健全な市政は生まれない

市の職員は優秀な「行政のプロ」です。一方で、議員はどうなのでしょう。

議員がテレビや新聞で聞きかじった程度で発する「思いつきの政策提言」は無駄、勉強不足は即座に露呈します。

議員になって驚いたことが多々あります。市職員から質問や提言のネタをもらう議員がいることもその一つです。また、さして厳しい内容でもないのに、「そんなこと質問できない、指摘できない」と言う議員もいます。しがらみと忖度からは、何も生まれません。

また、市職OB議員の増加を問題視する声も高まっています。「市民と行政をつなぐ」は常套句ですが、大切なのは、時として市民感覚とずれたり乖離したりしがちな行政に、市民の声をしっかり届けることです。機能不全では、真の「協働」は実現されません。

吉村幸代後援会

〒399-0025 長野県松本市寿台9丁目4-1

TEL&FAX 0263-58-0201

E-mail: sachio_kun@ybb.ne.jp

<http://yoshimura-sachio.jp/>



松本市議会議員

よしむらさちよ

吉村幸代

- ★安曇野市三郷温出身、信州大学大学院 経済・社会政策科学研究科修士課程修了
- ★キッセイ薬品工業(株)勤務を経て結婚
- ★松本市寿台公民館長として寿台太鼓連や清酒「寿一番星」を創出、市民タイムスのリレーコラム「食卓が勉強机」執筆13年

6年連続赤字！
このままでは危ない

松本市政
ここが問題
其の壱

大切な市立病院 持続可能を目指して

私は安曇野市出身、「安曇族」です。安曇族にとって、波田地区にある市立病院は命綱、なくなってしまうとは困る大切な医療機関です。

市立病院は病床利用率が低く、6年連続赤字の経営状態、毎年数億円の税金で穴埋めし続けています。また、松本市には多くの病院や診療所があり、県内で最も医療に恵まれています。

こうした中、市議会市立病院建設特別委員会は、巨大病院建設（103億円）の基本計画を承認してしまいました。「ちょっと待って!」と私は6月定例議会で質問。7月には、市長が抜本的な経営改革と基本計画の見直しを指示しました。

政治家はハコモノを建てると言う方が楽、ましてや医療にケチをつけるとイメージが悪いですが、私はあえて言いました。お産や山間僻地の医療を守るために、**目指すべきは持続可能な病院。経営改革は必須、病院事業管理者も必要です。**

今回の件を通じて、議員は行政が敷いたベルトコンベアーに乗せられてしまうこと、事業は粛々と進んでしまう傾向を感じました。そして、立ち止まり、勇気を出して物申すことの大切さも再認識しました。

地に足のついた
真の文化都市として

松本市政
ここが問題
其の弐

楽都・学都まつもと 輝き続けるために

15年前の市長選の争点を覚えていますか。「まつもと市民芸術館建設の是非」でした。その後、市民芸術館は何か変わりましたか。総工費140億円という巨額な数字に、いつの間にかマヒしていませんか。同館運営審議会の委員として関わった私は、ずっと気になっています。

セイジ・オザワ松本フェスティバル、信州・まつもと大歌舞伎……確かに、有名人が来松して話題沸騰、経済効果もあるらしい。でも、その陰では**天文学的数字の高額事業費が発生し続けています**。1年間の管理運営費は約7億円。収入を差し引いても、税金負担は1日あたり約164万円。平成30～32年度にかけて行われる大規模改修には約20億円。とりわけ、芸術監督が毎年1億円ずつ、15年間で15億円を費やした創造・発信型事業は、松本市民に何をもたらししているのでしょうか。

私は元公民館長で本来は文化予算を求める立場ですが、松本市美術館の新たな草間彌生作品（購入費5.2億円）の必要性にも疑問を抱いています。所管委員会では「地元作家の作品は買っておくべき」「将来的にもっと価値が上がる」といった議員発言があったようですが、果たして自分のお金であっても購入するのでしょうか。仮に価値が倍増したとしても、売却はできません。

行政による文化振興とは、広くあまねく文化的な環境を保障することと私は考えます。

市役所庁舎への
防犯カメラ設置問題

松本市政
ここが問題
其の参

多数決の前に 十分な審議・討論を

平成30年12月定例議会に、「生活保護窓口などに設置予定の防犯カメラ設置の中止について」という請願が提出されました。

松本市役所にて窓口騒動が相次いだことから、市は犯罪防止を目的に、来訪者の多い7箇所にかメラを設置する費用219万円を9月補正予算に計上、可決されています。その際の所管委員会の議事録を精査すると、設置予定場所を確認した議員はいたものの、それ以上の議論はありませんでした。

この成り行きを知って、恐らく議員の誰もが多少なりとも「迂闊だった。もっと議論すべきだった」と感じたのではないのでしょうか。

やっとの思いで生活保護窓口に辿り着いた市民を、映像に収めるのです。せめて、その情報をどのように扱うかなどを定めてから始めるべきではないのでしょうか。

しかし、本会議で、請願に賛成して起立した議員は10人だけでした。私を含め最前列の1年生議員が多かったのですが、これは何を意味するのでしょうか。迂闊だったと感じたら素直に改め、市民の思いに寄り添えば良いのに。

市議会議員は、**いつでも生活者の視点を忘れずに、社会的弱者の立場に立って考え、行動する必要があります。**

手抜きはしない、きっちり働く

